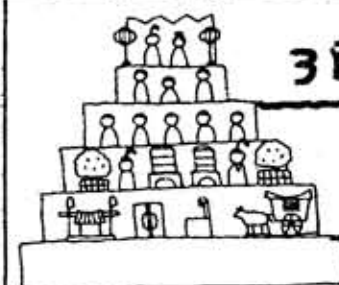


# ばてんうーまん

BAITEN. No. 138

1993年 3月 No. 138  
 (事務局)〒 津田尚美  
 (編集)〒 津田尚美



3月3日 ひな祭り

平成5年4月27日 成  
 国立婦人教育会館  
 婦人教育情報センター

ばてんうーまん道は、ひなだに、本と、考えています

来年の3月3日 又々、本と図書館へかかります

3年に1度発行する「サポート」

全国のみねさん、やって下さってありがとう。自分でもめ直し、大切な3年間を計画的に暮らすための「サポート」つけてもらいたいですか？

皆様のあやがて、いくらかの益金が出来ました。ありがとうの気持ちを返し、来年の3月3日、長野市中央公民館の図書室の「ばてんうーまん文庫」をやります。

女達がすすめる自分を発見する手助けとなる本。

日頃 おかしいなと思ってる事が、私の考えやなという勇気の湧いてくる本。

なやんでいるのは、自分だけではないとわかる本。

読んでみると元気が出て、明日もさうと歩ける様になる本。そんな本リスト作りをしています。読んで下さい。

みなさん、だれにだって高い本、たくさんあるあなたの本。

どうか教えて下さい。

定価をきいて...

出版元もかいて

事務局へおかけ下さい

例えば、こんな本、次夏に

私達リストに追加お月

にがめ。

## 女性情報年鑑

新聞記事に表われた女性の動きをリスト・事例集など約70項目に分類

- 世界の女性政治家
- 政治運動の女性差別問題・問題
- 企業内女性雇用事情
- 育児休業
- 女性ガトープの企業リスト
- 出生率
- セクシュアル・ハラスメント
- 代母、中絶、体外受精
- 夫婦別姓
- 女性の「性」リスト
- 女性差別・性・医療など資料一冊

一年間の女性の動きを集約したハンデイレイアウト

●最新の女性の情報をお届けします

- 全国20紙の新聞から女性の情報を幅広く収録した
- 専業主婦
- WOMEN'S MAGAZINE 見出しで読む世界の女性
- CINEMA 最新女性映画
- BOOK LIST 最新女性書籍ブックリスト
- 分類テーマ
- ひと 企業の動き トップ・管理職 労働
- 政治 行政 海外 からだ 性 グループ
- 活動 女性史・女性学 ライフスタイル 育児・教育 高齢化社会 文化 出版・本 データ イベント

●購読料  
 年間定額購読 ¥27,500 (税・送料別)  
 半年定期購読 ¥15,000 (税・送料別)  
 1冊 ¥2,500 (税・送料別)

## 川 女性情報







社会の悪や矛盾に直面し、一番怒っているのは女だから。

作者のサラ・パレツキーはアメリカの女性ミステリ作家たちの短編集である『ウーマンズ・アイ』(いやカワ文庫)のく序文(女の視点)の中で次のように述べている。

長い間、小説の中に登場してくる女性像は「気まぐれで裏表があって、愚かで、論理的思考が苦手で、肉体を武器にして、男を誘惑し破滅させる」ものだったため「このような女のイメージをくずしていくのはとてつもない重大勲」だった。しかし、近年、女性たちが社会のあらゆる分野に進出して、現実には華々しく活躍する者たちが増えたおかげで、小説の中でも女性作家たちが「罪悪感抜きで、非難を恐れることなく、行動する自立したヒロイン」を書くことができるようになった。

また小倉さんも言っているが、  
いえば作中の女が決めて娼婦  
被害者であることにいつも不満を抱  
女のミステリーを読みたいと思って  
自分が書いてしまえ』と思って書



「サラ・パレツキーはこれまでミステリーと  
か立ち尽くして泣くしかない無能力な被  
害者、自分の問題は自分で解決できる  
いたが、『誰も書いてくれないならいそ  
ぎ出した』ということである。

それを多くの女たちがどれほど待ち望んでいたことか。(販売部数の多さがそれを物語っている。)私もその中の一人だった。そして日本の女性作家 落合恵子さんもその中の一人だったらしい。ヴァイ・シリーズに刺激されてやはり自立した女性が事件を解決する『フルビューティに  
ようしく』(映倫社)という推理小説を最近書いている。

V.I.ウォーショスキーをご存じの方、ぜひ一度小説を読んでみて下さい。(映画の方は  
ちょっとおすすめでできません。サラ・パレツキーも不満だったという駄作です。)

小説を読んだあなた、1冊でファンになること受け合いです。

ヴァイを好きな人はそれだけでフェミニストではないかしら。

→ 制作者や監督の男たちには理解が  
ない。なぜ女たちがヴァイを好きかを。



ばらばら-まん 2月例会で

一同、ロケに話題にしたのがこれ!

同感したー! という92切り抜いて

みておねえにみえ そう、そう!



朝日新聞

1993年(平成5年)1月31日 日曜日

天野  
祐吉

貴りえの婚約解消の記者会見を見て、ほくは思わず「勝負あった!」と叫んでしまった。前方をしっかりと見据え、言葉をていねいに運びながら語りえちゃんはいっぱい「大関相撲」をとっていたが、貴ノ花のほろは何を言っているのか、さっぱりわからない。……ま、相撲界というのは、いまだに「相撲をとるか女をとるか」なんて言葉が通用するところだから、言いたくても言えないことがあったんだと、わかった顔で貴ノ花に同情する人もいた。が、それならそれで、言えないことには「言えない」とハッキリ言えはいいのであって、あれではどういふ目に見ても、「大関」の広告にならなかったんじゃないかと、ほくは思う。

で、男と女のモンダイで自分に都合の悪いことが起こると、「男は仕事だ」とか「この道一筋に生きる」とか、へんな逃げ口上を使ってホコ先をかわし、それをまたまわりの男社会が、「わかるわかる」なんて支持をして、結局はすべてのツケを、女にまわしてしまうのだ。

ホント、こんなことは言いたくないけれど、情けないねえ、男は。